

研究に関する情報公開文書

本研究は藤田医科大学の医学研究倫理審査委員会で審査され、学長の許可を得て実施しています。

研究課題：脳卒中患者の応用歩行・立位練習課題の難易度検討

研究責任者：園田 茂（藤田医科大学リハビリテーション医学Ⅱ講座 教授）

1. 研究の対象

対象は、藤田医科大学七栗記念病院回復期リハビリテーション病棟に入院している歩行および立位練習が可能な、未成年者を除く初発脳卒中片麻痺患者さんです。年齢の上限は特に設けません。

2. 研究目的・方法・研究期間

<目的>

リハビリテーションでは、脳卒中患者さんの歩行能力の向上を目的に、応用・立位練習を実施することが多いです。応用歩行・立位練習によって歩行能力や立位バランスの向上が得られれば、日常生活での転倒を回避することも可能であると考えられます。

しかし、応用歩行・立位練習の具体的な方法やその難易度について検討された報告は皆無なのが現状です。よって、理学療法士の経験的な考えに基づいて、練習内容を考案し、実際に実施しながら難易度を確認しているのが実情なのです。

そこで今回、脳卒中患者の応用歩行・立位練習課題として臨床で多用する複数の運動を患者さんに実施し、その結果を統計的手法により難易度順を検討します。これにより、患者の身体能力に応じて、適切な難易度の応用練習課題を提供することができ、より効率的にリハビリテーションを進めることができると考えられます。

<この研究で行う検証方法>

応用歩行・立位練習課題の実施可否を確認します

評価方法：

距離 10m 1 回の施行で可・否を評価

実施可：介助なく、練習課題の内容が実施できる

実施否：介助が必要

応用歩行・立位練習課題の詳細

全 32 項目

1. 継足歩行
2. 閉眼歩行
3. 速足
4. 障害物またぎ
5. スラローム
6. 横歩き
7. 頭部回旋
8. 頭部上下
9. 後ろ向き歩行
10. 段差昇降 10cm
11. 段差昇降 20cm
12. ピボットターン
13. 歩行速度変化
14. クロスステップ
15. つま先歩行
16. 大股歩行
17. サイドステップ
18. ジョギング
19. 重錘 3kg を非麻痺側上肢で持って歩行する
20. クッション上を歩く
21. 床へのリーチ動作
22. 20cm 台へのリーチ動作
23. 10cm 台へのリーチ動作
24. 立位で 360 度方向転換 麻痺側周り
25. 立位で非麻痺側に振り向く
26. 立位で麻痺側に振り向く
27. 継足保持 5 秒
28. 閉脚保持 5 秒
29. 閉眼開脚 5 秒
30. 閉眼閉脚 5 秒
31. 40cm 台からの立ち上がり
32. 30cm 台からの立ち上がり

＜検査及び観察項目＞

応用歩行練習課題の実施可・否

年齢、性別、疾患名、発症後期間、Functional Ambulation Categories（以下、FAC）、Stroke Impairment Assessment Set（以下、SIAS）麻痺側運動機能、Functional Independence Measure（以下、FIM）、その他診療録情報

＜予測される利益・不利益＞

（１）予測される利益

本研究に参加する事により、歩行能力や立位バランス能力が向上する可能性があります。また、研究成果により将来のリハビリテーション医療の進歩に貢献できる可能性があります。

（２）予想される不利益（負担および予測されるリスク）

研究対象者は、応用歩行練習課題の実施により疲労やバランスを崩すことによる転倒リスクが生じると考えられます。対象者の Vital sign や訴えを確認するとともに、転倒を回避するために安全懸架装置（SS-100：モリトー社）を使用いたします。

＜研究期間＞

倫理審査委員会承認日から 2024 年 3 月までを予定。

3. 外部への試料・情報の提供

なし

4. 研究組織

本学の研究責任者：

園田 茂（藤田医科大学リハビリテーション医学Ⅱ講座 教授）

5. 相談窓口

研究機関名：藤田医科大学七栗記念病院

研究分担者：日沖雄一（藤田医科大学七栗記念病院リハビリテーション部副主任）

連絡先： 藤田医科大学七栗記念病院 リハビリテーション部

〒514-1295 三重県津市大鳥町 424 番地の 1

TEL 059-252-3138